

■直江兼統 武将。上杉家執政として敏腕、秀吉から異例の厚遇、関ヶ原西軍ながら、家康の信任も得て米沢藩の基礎。

なおえかねつぐ

桶狭間の戦・1560＝ 越後魚沼郡上田庄出身の樋口兼豊の子に生まれた。

織田信長入京1568＝ 8歳：

京都宣教許可1569＝ 9歳：

眉目秀麗・才気煥発だったことから上杉謙信の目にとまり、春日山城に召されて謙信の養子となった景勝に近侍する一方、

室町幕府滅亡1573＝13歳：

謙信の薫陶を受けて文武の才を兼備するに至り、

上杉謙信没・1578＝18歳：\*謙信急死後の御館の乱では景勝を助けて勝利に導き、執政の一人として景勝を補佐。

以後、家臣団統制の強化をはかり、支城在番制をしいて領国内の統治をすすめる。

本能寺の変・1582＝22歳：

賤ヶ岳の戦・1583＝23歳：三島郡与板を領した直江家の名跡を継ぎ、山城守を称し、

豊臣秀吉関白1585＝25歳：豊臣秀吉が越中に来て佐々成政を下した際、唯一人景勝に従って、秀吉とその参謀石田三成と会見、

バテリン追放令 1587＝27歳：\*景勝が上洛した際にも従って、秀吉に惚れ込まれる。

・・・・・・1589＝29歳：秀吉の斡旋で従五位下・山城守に叙され、

秀吉全国統一1590＝30歳：小田原参陣など豊臣政権下の軍役奉仕のため、検地の実施、石高制の採用による知行制と軍役の調整・整備、上方駐在・朝鮮出陣などにもなう通商関係の掌握、灌漑・排水工事や新田開発、さらに当時領国経済にとって最大の収益をもたらした鉱山開発など行財政、軍事・外交、殖産興業とあらゆる面に及んだ。

ルッ島通交・1594＝34歳：5万余石を領する大身となり、与板衆、上田衆、信濃新参衆を駆使して国政を独裁。

石田三成、本多正信らと親交を結び、外交にも手腕を発揮した。

26聖人殉教・1596＝36歳：

豊臣秀吉没・1598＝38歳：豊臣秀吉が景勝を会津若松に移封した際、陪臣の身ながら、130万石のうちの出羽米沢30万石が与えられるという異例の厚遇を受け、秀吉の死去後は上杉家に従い石田三成に与党して徳川家康に対抗、

関ヶ原の戦・1600＝40歳：\*会津に挙兵した。関ヶ原の戦後、上杉家も家康に下り、出羽米沢30万石に減封されたが、これは兼統の旧領に上杉氏全体を封じこめたもので、家康からも信頼されていたことを示す。

以後、関ヶ原敗戦後の処理、とりわけ減封による家中の整理が課題となったが、譜代の家臣を減ずることなく、米沢藩の基礎を固めることに成功。

徳川家康隠居1605＝45歳：

家康駿府退隠1607＝47歳：

この間、兼統は本多正信との関係をもとに親徳川大名化を進め、

大坂冬の陣・1614＝54歳：大坂の陣には参陣して戦功をあげ、徳川氏の全面的な信頼を得て家禄の維持に成功した。

徳川家康没・1616＝56歳：

菱垣廻船始・1619＝59歳：没した。

学芸を好み、宋版の「史記」「漢書」「後漢書」(重要文化財)を保有、「文選」30冊の刊行を行うなどした。